

心臓病と診断されたら

お子さんは心臓病です、と初めて医師から伝えられたとき、信じられず、また、混乱されることが多いかと思います。何故？と思い、自分を責めたり、戸惑ったりすることもあるかと思います。ただ、少し落ち着いて考えてください。

生まれつきの心臓病のお子さんは、生まれてきたお子さんの1%を占めますので、今、日本では、年間10,000人を超える心臓病の子供が生まれています(表 1)。それほど少ない数ではありません。心臓病というと非常に重症で、長くは生きられず、元気に社会に出て行くこともできず、妊娠出産などはとても難しいとお考えかもしれません。実際、手術が必要なお子さんもいますが、それを乗り越えていくことによって、心臓病を持って生まれた方の95%程度は、成人を迎えることができます。多くの方は成人となり、仕事に就くこともできますし、また、90%位の女性は、妊娠出産もできるようになります。ですから、心臓病を持たずに生まれてきたお子さんと同様に、心臓病と診断された自分のお子さんの将来に希望を持ってください。

心臓病を持って生まれたお子さんは、時間とともに自然に治ってしまう場合もあります。また、心臓病を持っていても発育などに影響はなく、定期的に医師にかかって、生涯を過ごす方も少なくありません。一方で、生まれてすぐに心臓の働きが十分ではないために、心臓の治療や心臓手術が必要なお子さんもいます。そのような場合は、こども病院や大学病院などの総合病院の新生児科、小児循環器科、そして、心臓血管外科などがチームとなって診療を行います。今は、子供の心臓病の診療ネットワークができていますので、産科医、新生児科医、小児循環器科医などが、適切なアドバイスをしたり、手術を受ける病院を紹介したりしてくれます。心臓の手術は、長い入院が必要ですし、手術後も状態が良くなるまでに時間がかかることも少なくありません。しかし、手術成績は劇的に良くなっています。非常に重症な心臓病でも手術をして、症状が軽くなることが多くなりました。もちろん、心臓の治療や心臓手術が必要なお子さんは、本人もつらくていやなことが多いものですし、日常生活のケアなどで家族もがんばってお子さんの成長を助けていかなければなりません。そのことによって、将来、お子さんが自立していくようにできるからです。医療スタッフのアドバイスをうけながら、一緒にがんばってゆきましょう。

表1 日本の先天性心疾患患者数

日本の人口	127,600,000人(2012.3)
生産児	1,030,000人(2012)
先天性心疾患の生産児に占める頻度	1%
先天性心疾患生産児	10,300人/年
約95%が成人となる	9,780人/年
成人先天性心疾患患者数	約450,000人

先天性心疾患の患者数の変化 -1967年から2007年-

心臓病のこどもの多くが、成人を迎えるようになり、日本では、2000年頃にはすでに生まれつきの心臓病を持つ人は、成人(濃い灰色)の方がこども(薄い灰色)よりも多くなりました。現在、2014年では、成人となった先天性心疾患の方は、45万人になっています。各県に10,000人はいるということになります。その中で、多くの方は、自立して生活を送っています。

